

# 文 化

年竣工)だった。一九九三年に広場としてよみがえった。ドックの水を抜いた状態で保存は世界的にも例が無かった。イベントなどに活用され、横浜の新しい名所となっている。

私は九七年まで横浜市職員として、その後は中田宏横浜市長の参与として、三十年近く都市づくりにかかわってきた。現在は横須賀の浦賀造船所跡に残されたドックにも

で都市計画を専攻し、七七年、米国で普及する都市デザインの概念を導入した横浜市に就職した。中高時代を過ごした横浜への愛着もあった。文化の源泉であり表象である

歴史空間に注目し、都市形成史の研究を始め、「ある都市の歴史 横浜三三〇年」(福音館書店)を刊行するなどした。

八〇年代には歴史資産を調査し、横浜には価値を調査し、横浜には価値

二号ドックについては当初から特異な空間の大きさやハンマーの音が響いた修船を体感できるよう、水を抜いた状態で保存したいと考えていた。

不可能と思われたこの案も、所有者や専門家、行政の知恵と協力で、ついには一万六千個余りの石を積み直し、商業施設と一体となった広場として実現した。

## 産業遺産都市と生きる

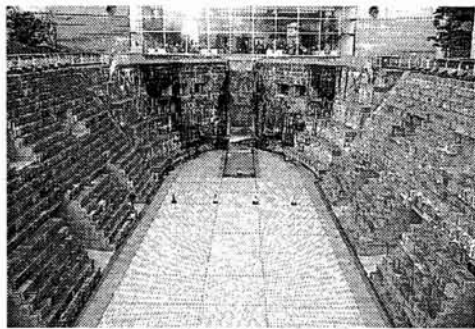
◇横浜で保存・活用を推進、新たな文化の創造めざす◇

北 沢 猛

横浜みなとみらい21の超高層ビル、ランドマークタワーの足元に大きな凹型の広場がある。階段状に積み上がった巨石が囲む空間は、古代ローマのコロッセウムを思わせる。

×××  
ドックヤード再生

ここは、造船や修船を行う空間を再生した「ドックヤード・ガーデン」である。かつては、横濱船渠株式会社(現在の三菱重工工業横浜造船所)の第二号ドック(一八九六



横浜みなとみらい21のドックヤード・ガーデン

ある近代建築が五百以上あることが判明したが、拡大成長時代で開発促進と規制緩和が繰り返され、古い建物というだけで取り壊しが当たり前だった。毎年一割ほどの近代建築が消えていった。そこで保存対策を検討したが、所有企業や行政内部に反対の意見もあり困難だった。横浜市独自の保存活用と助成の制度が

二馬車道ビル)は、地元商店街や市民の保存要望を受け、所有者が石造外壁の保存費用の負担を決断したものである。二号ドック保存を図った三菱と所有企業や横須賀市、専門家が一緒に保存



計画をまとめてきたことが特徴である。市民が触れる機会が少なかつただけに保存への反響も大きい。全国的にも非営利組織(NPO)などが保存活用の主体として活躍する時代が近い。疲弊した地域の再生の切り札として歴史資産の保存と活用が注目されている。

芸術家集まり活動 さて、二〇〇三年に横浜市は新しい都市政策として「創造都市構想」(クリエイティブ・シティ)を発表した。私は構想委員会座長を務めている。歴史空間が持つ力、新しい文化や芸術を刺激し創造的産業を生みだす力に

着目し、埠頭地区の倉庫群などの近代資産を活用するナショナルアートパーク計画を進めている。現在、港周辺の銀行建築や倉庫を活用する実験事業を行い、その運営にNPOを公募した。選考された「バンカートBank Art 1929」は、芸術家を集めて活動し、話題となっている。昨年は、国際的な現代美術展である横浜トリエンナーレが埠頭の倉庫で開催されるなど、歴史空間が都市文化の創造の場となりつつある。三年後の二〇〇九年に開港百五十周年を迎える横浜がどう変わっていくか楽しみだ。(きたださわ・たける 東京大学教授)